

# マイ・タイムライン (防災行動計画)

- 対象**▶ 中学1年生
- 目標**▶ マイ・タイムライン（防災行動計画）の重要性と意義を理解し、実際に自分の家族のマイ・タイムラインを作成する。また、自分と家族の命を守ることの大切さを理解し、家族に発信する。

愛媛大学大学院  
地域レジリエンス学環  
准教授 芝 大輔

## 授業のねらい

- マイ・タイムラインについて理解する。
- 自分の家族を想像してマイ・タイムラインを作成する。
- マイ・タイムラインについて家族と話し合い共有する。
- 大切な命を守るための備えの重要性を家族に伝える（命のはがき）。

### 監修

諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会会長  
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コラボレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ…→

### 導入 1

#### マイ・タイムラインについて学ぶ

- ⇒ 防災に意識を向けながら、マイ・タイムラインというものがあることを伝える。
- ⇒ 関東・東北豪雨（2015）の状況を伝え、マイ・タイムラインが作られるようになった経緯を知る。
- ⇒ もしもの時に「私たちが今できることは何か」を考える。

### 展開 1

#### ハザードマップを用いて地域の危険性を理解する

- ⇒ 自治体などが提供している動画（DVD・YouTube）を活用する。
- ⇒ 自分たちの校区の危険性についてハザードマップを見て話し合う。
  - ・ 山や川など地域の特性を考慮する。
- ⇒ 自宅のリスクを確認する。

### 展開 2

#### マイ・タイムラインを作成する

- ⇒ 4～5人のグループに分けて他人の意見も取り入れながら考える。
- ⇒ 自治体が提供するマイ・タイムライン（DVD・YouTube）などを活用し、実際に独自のマイ・タイムラインを作成する。
  - ・ 避難場所はどこにするか？
  - ・ 避難するタイミングはどうするか？
  - ・ 警戒レベルごとの行動計画を考える。
  - ・ 家族や生活の状況を踏まえ、役割分担を考えて記載する。

### まとめ

#### 地域・個人に合わせた「マイ・タイムライン」に関する学びの共有

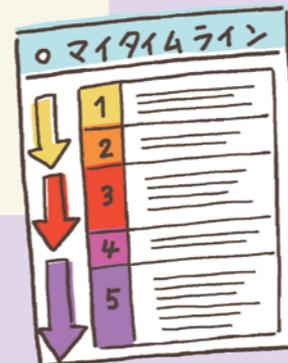
- マイ・タイムラインは居住地域や家庭、個人によって様々であることを理解する。
- アプリなどを利用して家族間で共有することの重要性を理解する。
- マイ・タイムラインの作成から感じたことや学んだことを発表する。
- マイ・タイムラインを作り、学んだことから、家族や大切な人に伝えたいことを手紙に書いて渡す（アウトプット・発信）。

### 授業中の確認事項

- ・ 手が止まった時や考えが止まった時など、グループで相談しているか。他の人の意見も参考にして進めているか。
- ・ 自宅や学校周辺の災害リスクを知らなかった子どもの理解の変化。
- ・ 避難所がどこにあるのか、どんな災害の時に使える（使えない）のかを理解しているか。
- ・ 自分の家族を想定し、配慮の必要な人への対応などに気づいているか。
- ・ 実際の家庭を想定し、段階に応じた行動計画が考えられているか。

### 教職員の方へ

- ・ マイ・タイムライン作成にあたっては、予備知識として、その必要性を十分に理解しておく必要があります。
- ・ 生徒の手や考えが止まった時にどう声をかけるか、指導する側にも防災知識が必要です。
- ・ 授業で学ぶだけでなく、家族と話し合って考えることが大切であり、そのきっかけを持たせることが重要です。



# 非常持ち出し品について考える

対象 ▶ 小学校高学年

目標 ▶ 非常持ち出し品について意義を理解し、実際に自分の家での備えについて考える。また、家族と話し合って災害への備えについて一緒に考える。

愛媛大学大学院  
地域レジリエンス学環  
准教授 芝大輔

## 授業のねらい

- 災害時には  
どんなことが起こるのか、  
どんなものが必要になるか  
(不足するか)を  
過去の例から学ぶ。
- 普段から備え、  
いざという時に持ち出す  
必要があるものは  
何かを考える。
- 家族やペットなど、  
各家庭によって必要な  
ものが違うことを学ぶ。

### 監修

諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会会長  
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コ  
ラボレーター。国内外で  
防災教育のプロジェクトに  
関わるほか、学校での防災  
学習の支援活動を中心に、  
災害、ボランティア、語り  
継ぎなどのテーマで講演も  
行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ…>

### 導入 1

- 災害時の状況と避難所での生活について学ぶ**
- ・地震など災害が起こった時には身の回りにどんなことが起こるのか、スライドなどで認識する。
  - ・過去の災害事例をもとに当時の様子を説明し、ライフラインの不通や避難所などに避難した際に必要となるものは何かを考える。
  - ・家庭内備蓄、非常持ち出しリュック、防災ポーチのそれぞれの役割を理解する。

### 展開 1

- 災害時の状況から何が必要かを考える**
- ・各班に分かれ、どんなものを非常持ち出しリュックに入れたらいいか、紙の模型を使って班全員で考えてみる。
  - ・各班で持ち出し品リストを作成し、班ごとに発表する。

### 展開 2

- 家族構成など、必要なものは家庭によって違うことを知る**
- ・前回授業を振り返りながら、一人ひとりが自分の家族を想像し、何が必要か考えてみる。
  - ・家族構成などによって違う持ち出し品の大きさや重さについて考える。
  - ・自分(家族)の非常持ち出し品リストを作成し、発表し合う。
  - ・他の人の発表を聞き、自分のリストと比較して内容の違いとその理由を理解する。

### まとめ

- 家庭によって異なる非常持ち出し品の準備と家族での共有**
- ・非常持ち出し品は人(家庭)によって違うことを学ぶ。
  - ・家族の中でも、眼鏡や薬など必要なものは人それぞれ違うことを理解し、家族内で共有することが大切である。
  - ・家族全体でひとつのリュックにまとめるのがいいか、一人ひとり分けて準備した方がいいのか考える。
  - ・常に携帯できる防災ポーチ(100均で作成)を例として見せ、普段から持ち歩いていれば安心であることを伝える。
  - ・非常持ち出し品について学んだことを家族と一緒に考えてみる。

### 授業中の確認事項

- ・非常時には、何がどのように役に立つかを理解しているか。
- ・大きさや重さによって、何でも好きなだけ持って行くことはできないことを理解した上で、本当に必要なものは何かを考えているか。
- ・一人ひとり必要なものが違うことを理解できているか。
- ・家族への配慮を考えているか。

### 教職員の方へ

- ・災害時にはどんなものが必要になるか、予備知識として十分理解しておく必要があります。
- ・生徒の手や考えが止まった時にどう声をかけるか、指導する側にも防災知識が必要です。
- ・授業で学ぶだけでなく、家族と話し合って考えることが大切であり、そのきっかけを持たせることが重要です。



# 防災学習センターへ行こう!

- 対象** ▶ 小学部2年～6年生
- 教材** ▶ ぼうさいNURIE、ワークシート、筆記用具、インターネット環境、タブレット端末 など
- 実施** ▶ 令和6年7月・9月(4回実施)

埼玉県立  
川島ひばりが丘  
特別支援学校  
教諭 齋藤朝子

## 授業のねらい

- 社会体験学習を通して身の回りの安全や備えの大切さに気づかせる。
- 目的をもって調べたことを協力してまとめ、災害への備えに取り組ませる。

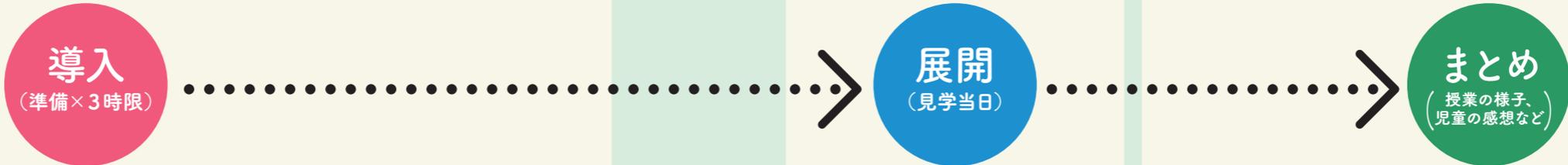
**監修**

諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会会長  
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コラボレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ……



### 導入 (準備×3時限)

#### 1. 事前に地域の防災学習センター見学予定を伝え、各自で調べる

- インターネットで防災学習センターの基本情報を調べる。  
どこにある?  
どんな施設?
- 防災学習センターではどんなことを体験したいかを考えワークシートに記載する。

#### 2. ライフラインが不通になった状況を考える

- 電気、ガス、水道が使えないとどんなことが起こるか?
- 非常時には何が必要になるか?
- 既存教材(ぼうさいNURIE<sup>※</sup>)を利用して非常持ち出し袋に入れるものを考える。
- 非常持ち出し袋の中身を見せ合い、入れたものが必要な理由を発表する。
- 自分も同じものを用意しているか確認する。

#### 3. 防災学習センター見学への期待感を高める

- すでに施設を見学した学校とオンライン授業を実施(埼玉県立日高特別支援学校小学部)。
  - 相手校が見学のまとめを発表し、それを元に質疑応答する。
- 《課題》
- 相手校との授業計画、進行方法の調整
  - オンライン授業に慣れていないと疑問があってもなかなか質問できない……など

### 展開 (見学当日)

#### 1. 防災学習センター見学

- スタンプラリー形式で見学ルートを決定。
- 2班に分かれて館内見学。  
《防災体験》  
体験に不安感の強い児童には無理強いせず、震度や明るさを変えたり、見学のみとしたりする。体験した児童や教員がその感想を伝え、共感できるようにする。
- 昼食時に非常食を試食(教職員が持参した非常食を児童が調理)。

#### 2. 事後学習

- 見学時とは違う班をつくり既成防災ゲーム(なまずの学校<sup>※</sup>)を実施。
- 見学体験を元に、班ごとに相談しながら災害時に起こり得るさまざまな事柄の解決法を考える。

### まとめ (授業の様子、児童の感想など)

- 防災教材を使った学習やオンライン学習に関心を持ち、興味をもって取り組むようになった。
- 電気が止まったらどうするかを考えたとき、「ゲームができないから困る」という声が大勢だったが、電気がなくても出来る遊びとしてトランプや折り紙を挙げる児童がいた。
- 自分が安心できるもの(こと)を知っている児童が多いので、非常時にも心を落ち着かせる方法を周囲に伝えることができた。
- 以前に学習した非常用携帯トイレにも使われている高分子ポリマーを使ったセンサーバッグが、冷蔵庫で冷やせば保冷剤になるということを知っていた児童が実際に弁当の保冷に使用していた。

活動の様子を写真で貼り出したことで、学部内の教職員や児童たちが見るなど、関心をもってもらうことに繋がった。



※ぼうさいNURIE  
ぬりえを通して「いのちを守る」ことを学ぶツール  
[http://peraichi.com/landing\\_pages/view/bousainurie/](http://peraichi.com/landing_pages/view/bousainurie/)



※なまずの学校  
防災カードゲーム  
<https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h26/76/bousaitaisaku.html>

©一般社団法人社会応援ネットワーク  
※「防災教育実践交流会」は、競輪の補助を受け運営しています。

# 天気予報を活用して危険を判断 予測可能な水害には早めの避難を

- 対象**▶ 小学6年生
- 目標**▶ 地域の水害や土砂災害の危険性を知る。  
人任せにせず自ら情報を得て、危険を判断する力を養う。  
災害が起こる前に避難する。
- 教材**▶ 各地の災害の写真、防災手帳 など

防災教育実践交流会  
座長 諏訪清二

## 授業のねらい

- 地域固有の災害を知る。
- 各災害への備え方を学ぶ。
- 万一、災害が発生した時の対応方法を学ぶ。
- 自然がもたらす恩恵や、災害を引き起こす自然のメカニズムを知り、地域の自然と地域社会への関心を高める。

### 監修

諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会座長  
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コラボレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ…>

### 導入

#### 1.災害に対する関心をひき出す

⇒最近起こった、あるいはよく覚えている災害ニュースを例に挙げ、自分たちが住む地域ではどんな災害が起こりやすいかを考えてみる。

#### 2.地域特有の災害は何かを考える?

⇒自分たちの地域で、過去にどんな災害があったか考えてみる。  
「土砂崩れが何回も起きていて聞いた」  
「集中豪雨があった」  
土砂災害の危険性が高い  
⇒水害を中心に勉強してみよう。

#### ※同時に心のケアも忘れずに

災害の写真を見せる前に、怖くなったり胸がドキドキしたりしても、それは誰にでも起こる自然な反応であることを伝えて安心させる。

・「怖くなった時のおまじない」などを教えるのも有効。

### 展開 1

#### 子ども達に興味を持たせるため、キャラクターを例に災害をイメージする

⇒土砂災害を起こす怪獣「ドガジー」現る!!

ド…土石流  
ガ…がけ崩れ  
ジー…地すべり  
※特徴：足が速い

「ドガジー」が表れたらどうする?

- ⇒足が速いからすぐに追いつかれる。
  - ⇒現れてから逃げたのでは遅い。
  - ⇒来る前に逃げよう。
- 「災害が起こる前に避難しよう」



### 展開 2

#### 土砂災害の原因を考える

⇒「ドガジー」はどんな時に現れるか考えてみよう。

- ・大雨が降った時
- ・台風が来た時

いつ大雨や台風がやって来るかを事前に知るにはどうすればいいか考える。

天気予報で事前に情報を知れば、天気が悪くなる前に避難することが可能。



### まとめ

#### 天気が悪くなる前に早めに避難することが最も重要

⇒人任せにせず自ら情報を得て、危険を判断すること。

- ・いつ起こるかわからない地震と違い、天気予報で事前に予測できる水害や土砂災害は、迅速な避難行動で被害を最小限に抑えることが可能。
- ・天気予報で大雨や台風の動きを予測し、警報や避難指示が出る前でも、危険と思ったら自分の判断で避難する。

